1　教育課程実施上のポイント

（１）目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
(2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
(3) 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

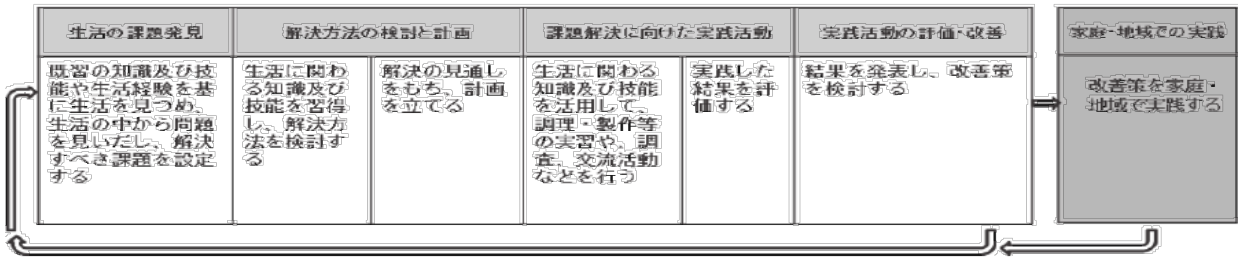
○全体に関わる目標を柱書として示すとともに、家庭科で育成を目指す資質・能力を、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って示した。

家庭科において育成を目指す資質・能力の整理

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解と技能 ・家庭生活と家族についての理解 ・生活の自立の基礎として必要な衣食住についての理解と技能 ・消費生活や環境に配慮した生活の仕方についての理解と技能	日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、課題を解決する力 ・日常生活の中から問題を見いだし、課題を設定する力 ・生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を構想する力 ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にしてわかりやすく表現する力 ・他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えをわかりやすく伝えたりして計画・実践等について評価・改善する力	家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度 ・家庭生活を大切にする心情 ・家族や地域の人々と関わり協力しようとする態度 ・生活を楽しもうとする態度 ・日本の生活文化を大切にしようとする態度

○目標(2)に示されたような「日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現する」という学習過程を通して、習得した「知識及び技能」を活用し、「思考力、判断力、表現力等」を育成することにより、課題を解決する力を養う。

家庭科，技術・家庭科（家庭分野）の学習過程の参考例



※この学習過程は、児童の状況や題材構成等に応じて異なることに留意する必要がある。
※家庭や地域での実践についても一連の学習過程として位置付けることが考えられる。

（２）実施上のポイント

①改訂のポイント

○内容構成の改善

➢小・中・高等学校の内容の系統性を明確にし、各内容の接続が見えるよう、「Ａ家族・家庭生活」「Ｂ衣食住の生活」「Ｃ消費生活・環境」の三つの内容に整理した。Ａ、Ｂ、Ｃそれ

ぞれの内容は、「生活の営みに係る見方・考え方」に示した主な視点が共通している。

➢三つの内容は、空間軸と時間軸の視点から学校段階別に学習対象を整理した。小学校における空間軸の視点は、主に自己と家庭、時間軸の視点は、現在及びこれまでの生活である。

➢資質・能力を育成する学習過程を踏まえ、各項目は、原則として、「知識及び技能」の習得に係る指導事項アと「思考力・判断力・表現力等」の育成に係る指導事項イで構成した。

○履修について

➢Ａ(1)アは、ガイダンスとして第５学年の最初に履修させるとともに、生活の営みに係る見方・考え方について触れ、Ａ、Ｂ、Ｃの学習と関連させて扱う。

➢新設したＡ(4)については、実践的な活動を家庭や地域などで行うことができるよう配慮し、２学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修させる。

○社会の変化への対応

➢家族や地域の人々とよりよく関わる力を育成するため、Ａ(3)において幼児又は低学年の児童、高齢者など異なる世代の人々との関わりに関する内容を新設した。

➢自立した消費者を育成するため、Ｃ(1)において中学校との系統性を図り「買物の仕組みや消費者の役割」に関する内容を新設した。

○基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着

実践的・体験的な活動を一層重視するとともに、調理及び製作において一部の題材を指定した。

➢Ｂ(2)ア(ｴ)：ゆでる材料として青菜やじゃがいもなどを扱う。

➢Ｂ(5)：日常生活で使用する物を入れる袋などの製作を扱う。

②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

主体的な学び	題材を通して見通しをもち、日常生活の課題の発見や解決に取り組んだり、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に粘り強く取り組んだり、実践を振り返って新たな課題を見付け、主体的に取り組んだりする態度を育む学び
対話的な学び	児童同士で協働したり、意見を共有して互いの考えを深めたり、家族や身近な人々などとの会話を通して考えを明確にしたりするなど、自らの考えを広げ深める学び
深い学び	児童が日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて様々な解決方法を考え、計画を立てて実践し、その結果を評価・改善し、更に家庭や地域で実践するなどの一連の学習過程の中で、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、課題の解決に向けて自分なりに考え、表現するなどして資質・能力を身に付ける学び

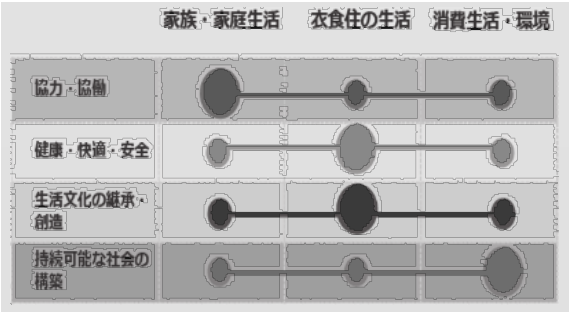
③見方・考え方について

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること

○小学校においては「生活の営みに係る見方・考え方」のうち、「協力・協働」については「家族や地域の人々との協力」、「生活文化の継承・創造」については「生活文化の大切さに気付くこと」を視点として扱うことが考えられる。

○示された視点は、全ての内容に共通する視点であり、相互に関わるものである。

○児童の発達の段階を踏まえるとともに、取り上げる内容や題材構成等によりいずれの視点を重視するのかを適切に定めることが大切である。



※主として捉える視点については、大きい丸で示している。

④移行措置について

○全部又は一部について新小学校学習指導要領によることができる。

ただし、平成３２年度の全面実施を見据え、平成３１年度の第５学年の児童に履修漏れが生じないよう、平成３０年度中に２年間を見通した教育課程を編成しておく必要がある。

2　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

（１）題材名　朝食に合ういためるおかずを作ろう（第６学年）

「B 日常の食事と調理の基礎」(1)(2)(3)

（２）題材のねらい

○朝食に関心をもち、いためるおかずを調理し、栄養を考えた朝食のとり方をしようとする。

○朝食に合ういためるおかずの材料や手順、栄養のバランスのよい朝食の献立について考えたり自分なりに工夫したりする。

○フライパンを安全に取り扱い、いためるおかずを作ることができる。

○朝食の役割や大切さ、いためる調理の特性と材料や目的に応じたいため方、栄養のバランスのよい１食分の献立の立て方について理解する。

（３）題材の指導計画（全１１時間）

時間	目標	学習活動
1 2	朝食に関心をもち、朝食の役割や大切さを理解することができる。	・朝食のとり方を振り返り、気付いたことをまとめる。 ・朝食の役割について話し合う。 ・朝食づくりの工夫を発表し合い、朝食づくりの条件をまとめる。 ・朝食に合う野菜いための学習の見通しをもつ。
3	野菜の種類に応じたいため方を理解し、三色野菜いためをつくることができる。	・切り方や火加減を変えていためたにんじんとキャベツを観察・試食する。 ・ゆでたものと比べ、いためる調理の特性についてまとめる。 ・３つの種類の野菜をいためる時の切り方やいためる順序などについて考え、発表する。 ・示範を見て、フライパンの取扱い方と後片付けの仕方についてまとめる。
4 5		・示範を見て、三色野菜いための作り方を確認した後、調理し試食する。 ・実習を振り返り、自己評価する。
6	三色野菜いための学習を生かしてオリジナル野菜いための材料や手順を考え、調理計画を工夫することができる。	・オリジナル野菜いための条件を確認する。 ・材料の分量や手順を考え調理計画を立てる。 ・実習のペアと意見交換し、計画を見直す。
7 8 本時	材料や目的に応じた切り方、いため方に関心をもち、オリジナル野菜いためを作ることができる。	・各自が調理計画に基づき、実習する。（２人１組で実践交流し、相互評価する。） ・実習を振り返り、自己評価する。

生活の課題発見

朝食調べや家庭でのインタビューなど、生活を実感できるような実践的・体験的な活動を計画的に設定し、自分や家族がどのように家庭で生活しているかに関心をもち、問題意識をもてるようにします。

解決方法の検討と計画

課題を解決するために必要な、いためる調理についての基礎的・基本的な知識及び技能を習得します。

その際、実習や実験を通して手順の根拠について考え、理解できるようにします。

基本の題材で習得した知識及び技能を生かして、課題を検討します。

〈課題の例〉
- どのような切り方にするのか
- どの野菜からいためるか

課題解決に向けた実践活動

計画に沿って調理の実習を実践する過程で、気付いたことを記録しておきます。

実践活動の評価・改善

記録をもとに、課題の達成状況を振り返ります。

児童が実践活動を評価する場面では、課題を解決することができたのか、どのようにすればよかったのか、話合いを通して改善策を考え、次の課題を明確にすることが重要です。

9 10	栄養のバランスのよい１食分の献立の立て方を理解し、オリジナル野菜いためをおかずとした朝食の献立を考えることができる。 ※家庭での実践	・調理カードを用いて献立の立て方を知る。 ・自分の朝食のとり方の課題や調べたことを生かして、米飯とみそ汁、オリジナル野菜いためをおかずとした朝食の献立を考える。 ・各自が考えた献立をグループで発表し合い、相互評価する。 ・献立について見直す。
11	実践報告会を通して栄養を考えた朝食のとり方や朝食の大切さについて理解することができる。	・実践報告会を行う。 ・栄養を考えた朝食のとり方や朝食の大切さについて話し合う。

課題解決に向けた実践活動

基本の題材で学んだことを、家庭で活用する場面を意図的に設定し、「生活の課題を解決する力」を育むことを目指します。

↓

家庭・地域での実践

↓

実践活動の評価・改善

このような一連の学習過程を工夫した題材構成により、児童が課題を解決できた達成感や、実践する喜びを味わい、次の学習に主体的に取り組むことができるようにします。２学年間を見通して、このような学習過程を工夫した題材を計画的に配列し、課題を解決する力を育むことが大切です。

※この学習過程は、児童の状況や題材構成等に応じて異なることに留意する。

※家庭や地域での実践についても一連の学習過程として位置付けることが考えられる。

（４）授業展開例

①本時の目標（本時７、８／１１）

材料や目的に応じた切り方、いため方に関心をもち、オリジナル野菜いためをつくることができる。

②展開例

学習活動	指導上の留意点
1　本時のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。	・基本の三色野菜いためをつくったときに気付いたことを生かして、オリジナル野菜いためをつくることを確認し、意欲付けを図る。
おいしいオリジナル野菜いためをつくろう	
2　自分の立てた調理計画をもとにオリジナル野菜いためをつくり、試食する。 ・二人一組で実践交流し、相互評価する。 ・自己評価する。	・自分の調理計画の手順を確認し、材料や目的に応じた切り方、いため方に留意して調理するよう助言する。 ・二人一組で交代しながら調理実習を行い、三色野菜いための学習を生かしているか学習カードに記入しながら相互評価するよう伝える。
3　気付いたことを発表し合い、学習のまとめをする。	・材料や目的に応じた切り方、いため方をして気付いたことや工夫を発表し合い、学習のまとめをする。 ・切り方、いため方、手順など、友だちのおいしくできた工夫について実物を見てそのよさを実感し、家庭での実践に生かそうとする意欲を高める。
4　次時の内容と今後の見通しをもつ。	・次時の学習（実践報告会）の予告をし、家庭での実践を促す。

【10の視点】⑥学び合う活動の充実

切り方見本で確かめたり、写真と照らし合わせたりするなど、基本の三色野菜いための実習で学んだことを確認し、それらを生かしながら相互評価を行います。ペアになって実習を観察し合うことで技能の達成状況を自己評価できるようにするとともに、技能の向上への関心を高め、学習への意欲を喚起します。

【10の視点】⑧学習を振り返る活動の設定

児童が自分の成長を自覚して達成感を味わったり、実践する喜びに気付いたりすることができるようにします。また、友だちの工夫から学んだことや新たに見付けた課題を次の朝食献立作成に生かすなど、児童が生活の課題を解決しようと学び続けることができるようにすることは、家庭科における「主体的な学び」の重要なポイントです。

【参考】「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校）」平成 23 年 11 月　国立教育政策研究所
「初等教育資料（平成 29 年 8 月号）」文部科学省教育課程課／幼児教育課

中学校　技術・家庭（技術分野）

1　教育課程実施上のポイント

（１）技術・家庭科の目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
(2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

【技術分野の目標】

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
(2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

技術分野の目標は、「**技術の見方・考え方を働かせ**」、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、「**技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力**」を(1)～(3)の３つの柱によって育成すると示されている。

知識及び技能【目標(1)】	○技術の仕組みと関係する科学的な原理・法則の基礎的な理解 ○技術を安全・適切に活用する技能 ○生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術の概念の理解
思考力、判断力、表現力等【目標(2)】	○生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだし、課題を設定して解決策を構想する力 ○製作図や回路図、計画表等に表現して試行錯誤しながら具体化し、実践を評価・改善する力
学びに向かう力、人間性等【目標(3)】	○安心、安全で便利な生活の実現や持続可能な社会の構築のために、主体的に技術に関わる態度 ○技術を工夫し創造しようとする実践的な態度

３つの柱に沿って整理したことから、従前の教科目標に示されていた「基礎的・基本的な知識及び技術」の「技術」については、「技能」となっています。

①改訂のポイント

○内容構成

各内容を示す順序は、各学校における指導学年などを規定するものではないが、小学校における学習との接続を重視する視点から、生物育成の技術に関する内容とエネルギー変換の技術に関する内容の順序を入れ替えた。

４つの内容	Ａ材料と加工の技術、Ｂ生物育成の技術、Ｃエネルギー変換の技術、Ｄ情報の技術
３つの要素	生活や社会を支える技術、技術による問題の解決、社会の発展と技術

○履修方法

技術に関する教育を体系的に行うために、第１学年の最初に扱う内容の「生活や社会を支える技術」の項目は、小学校での学習を踏まえた中学校での学習のガイダンス的な内容としても指導する。

○社会の変化への対応

急速な発達を遂げている情報の技術に関しては、小学校におけるプログラミング教育の成果を生かし発展させるという視点から、従前からの計測・制御に加えて、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングについても取り上げる。加えて、情報セキュリティ等についても充実する。

②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

主体的な学び	現在及び将来を見据えて、生活や社会の中から問題を見いだし課題を設定し、見通しをもって解決に取り組むとともに、学習の過程を振り返って実践を評価・改善して、新たな課題に主体的に取り組む態度を育む学び。
対話的な学び	他者と対話したり協働したりする中で、自らの考えを明確にしたり、広げ深める学び。直接、他者との協働を伴わなくとも、既製品の分解等の活動を通してその技術の開発者が設計に込めた意図を読み取るといったことなども、対話的な学び。
深い学び	生徒が、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価・改善といった一連の学習活動の中で、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりして、資質・能力を獲得する学び。

③見方・考え方について

生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること。

材料と加工の技術	○材料と加工の技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、生産から使用・廃棄までの安全性、耐久性、機能性、生産効率、環境への負荷、資源の有限性、経済性などに着目する。 ○材料の組織、成分、特性や、組み合わせる材料の構造、加工の特性にも配慮し、材料の製造方法や、必要な形状・寸法への成形方法等を最適化する。

生物育成の技術	○生物育成の技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、作物等を育成・消費する際の安全性、生産の仕組み、品質・収量等の効率、環境への負荷、経済性、生命倫理などに着目する。 ○育成する生物の成長、働き、生態の特性にも配慮し、育成環境の調整方法等を最適化する。
エネルギー変換の技術	○エネルギー変換の技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、生産から使用・廃棄までの安全性、出力、変換の効率、環境への負荷や省エネルギー、経済性などに着目する。 ○電気、運動、物質の流れ、熱の特性にも配慮し、エネルギーを変換、伝達する方法等を最適化する。
情報の技術	○情報の技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、使用時の安全性、システム、経済性、情報の倫理やセキュリティ等に着目する。 ○情報の表現、記録、計算、通信などの特性にも配慮し、情報のデジタル化や処理の自動化、システム化による処理の方法等を最適化する。

④移行措置について

○平成３０年度から全部または一部の先行実施が可能。

→　教科の時間数を考え、平成３１年度入学生からは、平成３３年度の全面実施に向けて計画的な履修を進めていくことが必要となる。

平成３３年度に完全実施となるので、平成３３年度の３年生は新学習指導要領での学習となります。

授業時数や内容等を考えると、平成３１年度入学の１年生から新学習指導要領で実施することが望ましいです。

２　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

（１）題材名　ドットマトリクス LED を用いたディジタル作品の表示（第３学年）

「Ｄ情報に関する技術」

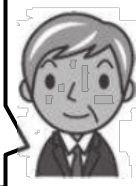
（２）題材のねらい

コンピュータを用いた情報処理の仕組みや特徴を知り、簡単なプログラム作成ができるようにするとともに、課題解決のために情報処理の手順を工夫する能力を育成する。

（３）題材の指導計画（全６時間）

時間	ねらい	学習活動
1	デジタルとアナログの違いやデータ通信の工夫が分かる。	より速く正確に情報を伝達する方法について考え、デジタルとアナログの違いに気付くとともに、データ通信の工夫を知る。
2	情報を処理するしくみやコンピュータの構成が分かる。	デジタル伝達ゲームでデータ処理の特徴に気付く。
3	コンピュータを用いた情報処理（プログラミング）の特徴が分かる。	日常の動作を分解し、順番を入れ替え実行することで、順次概念に気付く。
4	ドットマトリクス LED 教材に表示させるプログラムの方法が分かり、プログラミングができる。	ドットマトリクス LED 点灯のアルゴリズムを利用した簡単なゲームを行い、任意の LED を点灯させるプログラミングを行う。
5	様々な文字や画を表示させるためにダイナミック点灯の考え方を活用し、プログラムを工夫できる。	ダイナミック点灯（斜めの点灯）させる方法を考え、プログラムを予想し、入力する。
6	課題解決のために、文字や静止画、動画などを複合し、表現や発信ができる。	文字や静止画の複合、動画などの表示方法について、複合して一元的に活用する等について意識できる。

題材など内容や時間のまとまりの中で、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりを創り出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めることが求められます。



（４）授業展開例

○本時の目標

様々な文字や画を表示させるためにダイナミック点灯の考え方を活用し、プログラムを工夫できる。

学習活動	○主な発問・予想される生徒の反応	留意点等
１　本時のねらいを知る。 ＬＥＤを斜めに点灯させる方法を考えよう 【10の視点】 ①魅力的な課題･教材の提示 斜めの３点の点灯（ダイナミック点灯）を実際に示すことで、学習への見通しを持たせます。		・本時のねらいである斜めの３点の点灯（ダイナミック点灯）を演示し、学習の見通しをもつ。
２　プログラムを予想する。 【10の視点】 ⑥学び合う活動の充実 ＬＥＤを斜めに点灯させるためにどのようなプログラムにすれば良いのかを考える際に、様々なプログラム方法についてグループで話合いをすることで、より思考が深まります。	○「ＬＥＤを斜めに点灯させるには、どうすれば良いか」班で相談してみよう。	・グループでの話合いを全体で共有することができるように全員にワークシート、班にホワイトボードを配布する。 ・出てきた意見はホワイトボードに書かせる。
【10の視点】 ⑤説明･発表の機会の充実 予想プログラムについて自分の考えを説明する場を設定することで､プログラムの改善方法についてさらに考えることができます。	○予想プログラムを入力し、点灯を確認しよう。（ＰＣに移動する） ・斜めに点灯している。 ・ＬＥＤが同時に点灯している。 ・表示が予想と違っている。	・アルドブロックを使用し、基本の型を作らせ、書き込みを行わせる。 ・机間指導を行い、操作の分からない生徒、ペアに助言をする。
【10の視点】 ④思考の整理 多様な考えを参考にしながら､改善プログラムを作成することで、ＬＥＤを斜めに点灯させるプログラムの作成というねらいに迫ります。	○自分たちの班の予想したプログラムと実行した結果を発表しよう。 ・うまくいかなかった。 ・「ループ」を利用していない。 ・「待つ」を使っていない。時間が長い。	・各班の代表者に発表させる。 ・あえてうまくいかない班を取り上げ、改善の方法を全体で考えさせる。 ・解決に近づく意見がなければ、ヒント映像（ダイナミック表示）を見せる。
３　改善したプログラムを入力してみる。	○改善したプログラムで表示させてみよう。 ・「ループ」を利用した。 ・「待つ」を使った。時間を短くした。	・ＬＥＤの点灯時間に着目させ、時間の増減が点灯にどのように影響するか観察させる。
４　本時のまとめをする。	○本時の内容から分かったことをワークシートにまとめよう。	・ＬＥＤ表示器の表示例を見せる。

生徒や学校の実態に応じ、多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てていくことが重要です。技術の「見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて､より質の高い学習にしましょう。

中学校　技術・家庭科（家庭分野）

1　教育課程実施上のポイント

（１）目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
(2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

【家庭分野の目標】

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
(2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
(3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

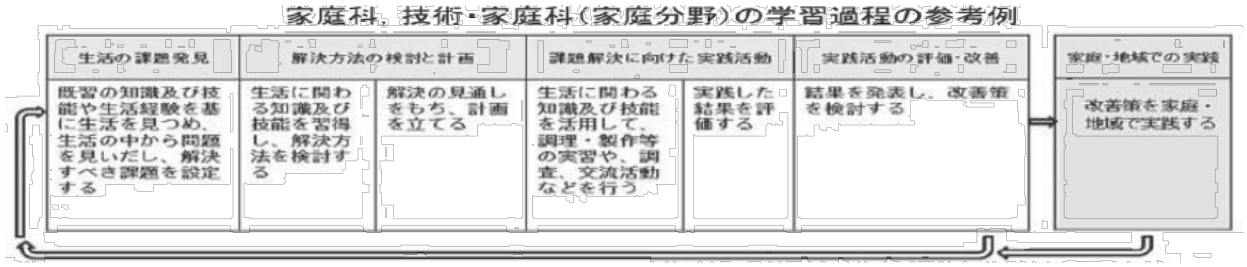
○この目標は、家庭分野で育成を目指す資質・能力を(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿って示した。

家庭科において育成を目指す資質・能力は、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立に必要なものであり、実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れ、三つの柱を相互に関連させることが重要である。

技術・家庭科（家庭分野）において育成を目指す資質・能力の整理

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解と技能 ・家庭の基本的な機能及び家族についての理解 ・幼児、高齢者についての理解と技能 ・生活の自立に必要な衣食住についての理解と技能 ・消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立についての基礎的な理解と技能	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、これからの生活を展望して課題を解決する力 ・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだし、課題を設定する力 ・生活課題について他の生活事象と関連付け、これからの生活を展望して多角的に捉え、解決策を構想する力 ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にして、論理的に表現する力 ・他者の意見を聞き、自分の意見との相違点や共通点を踏まえ、計画・実践等について評価・改善する力	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度 ・家庭生活を支える一員として生活をよりよくしようとする態度 ・地域の人々と関わり、協働しようとする態度 ・生活を楽しみ、豊かさを味わおうとする態度 ・日本の生活文化を継承しようとする態度 ・将来の家庭生活や職業との関わりを見通して学習に取り組もうとする態度

○目標(2)に示されたような「家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現する」という学習過程を通して、習得した「知識及び技能」を活用し、「思考力、判断力、表現力等」を育成することにより、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。



※この学習過程は、生徒の状況や題材構成等に応じて異なることに留意する必要がある。
※家庭や地域での実践についても一連の学習過程として位置付けることが考えられる。

（２）実施上のポイント

①改訂のポイント

○内容構成の改善

➢小・中・高等学校の各内容の系統性を明確にし、各内容の接続が見えるように、「生活の営みに係る見方・考え方」を踏まえて「Ａ家族・家庭生活」、「Ｂ衣食住の生活」、「Ｃ消費生活・環境」の三つの内容に整理した。

➢三つの内容について、学習内容を空間軸の視点から主に家庭と地域、時間軸の視点からこれからの生活を展望した現在の生活として整理した。

➢資質・能力を育成する学習過程を踏まえ、各項目は原則として、指導事項ア（「知識及び技能」の習得）と指導事項イ（「思考力・判断力・表現力等」の育成）で構成した。

○Ａ(1)については、小学校家庭科の学習を踏まえ、家族・家庭の機能を扱うとともに中学校における学習の見通しを立てさせるためのガイダンスとして、第１学年の最初に履修させる。

○「生活の課題と実践」の一層の充実として、Ａ(4)、Ｂ(7)、Ｃ(3)として位置付け、３項目のうち１以上を選択し、他の内容と関連を図り、家庭や地域などで実践的な活動を行う。

○社会の変化に対応した各内容の見直し

「Ａ家族・家庭生活」：少子高齢化の進展に対応し、幼児との触れ合い体験などを一層充実するとともに、高齢者など地域の人々と協働することに関する内容を新設。

「Ｂ衣食住の生活」：食育を一層推進するために食事の役割、栄養と献立、調理で内容を構成。「ゆでる、いためる」に加え、「煮る、焼く、蒸す等」の調理方法を扱い、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得していく。グローバル化に対応して、日本の生活文化を継承することの大切さに気付くように、和食、和服など、日本の伝統的な生活についても扱う。

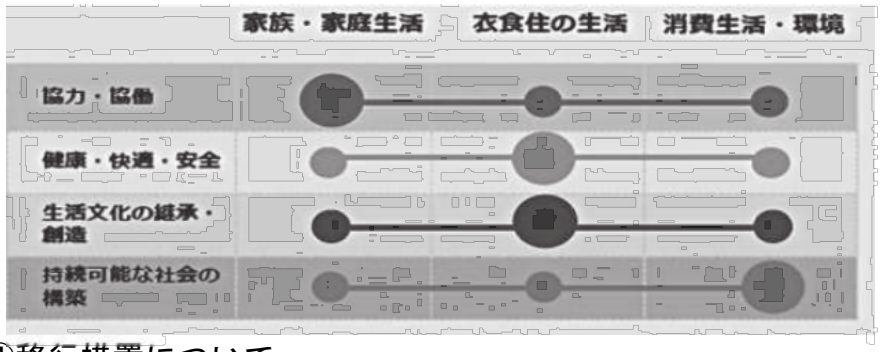
「Ｃ消費生活・環境」：持続可能な社会の構築に対応して、自立した消費者を育成するため、「計画的な金銭管理の必要性」、「消費者被害への対応」に関する内容を新設。消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎となる内容とする。

②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

主体的な学び	現在及び将来を見据えて、生活や社会の中から問題を見いだし課題を設定し、見通しをもって解決に取り組むとともに、学習の過程を振り返って実践を評価・改善して、新たな課題に主体的に取り組む態度を育む学び。
対話的な学び	他者と対話したり協働したりする中で、自らの考えを明確にし、広げ深める学び。
深い学び	生徒が、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価、改善といった一連の学習活動の中で、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりして、資質・能力を獲得する学び。

③見方・考え方について

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。



※示された視点は全ての内容に共通する視点であり、相互に関わり合う。
※取り上げる内容や題材構成等により、どの視点を重視するのかを適切に定めることが大切。
※主として、捉える視点については、大きな丸で示している。

④移行措置について

○全部又は一部について新学習指導要領によることができる。
ただし、平成３３年度の全面実施を見据え、平成３１年度の第１学年の生徒に履修漏れが生じないよう、平成３１年度には３年間を見通した教育課程を編成しておく必要がある。

2　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

（１）題材名　よりよい消費者をめざそう（第２学年）

「Ｄ身近な消費生活と環境」(1)(2)

（２）題材のねらい

自分や家族の消費生活に関心をもち、消費者の基本的な権利と責任について理解するとともに、生活に必要な物資・サービスの情報を収集・整理し、適切な選択・購入及び活用ができるようにする。

（３）題材の指導計画（全９時間）

時間	ねらい	学習活動
1 2	自分や家族の消費生活について関心をもち、消費の在り方を改善しようとしている。	○消費生活について考える。 ・自分や家族の買い物調査をする。 ・自分や家族の消費生活の課題をまとめる。
3 4	自分や家族の生活に必要なものの適切な選択、購入及び活用について考え、工夫することができる。	○商品の選択・購入、生活情報の活用について考える。 ・販売方法と支払い方法を知る。 ・品質表示やマーク等の表示の活用をする。 ・物資・サービスの選択・購入・活用をする。
5 6	家庭生活と消費に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。消費者の基本的な権利と責任、消費者基本法について理解する。	○よりよい消費生活を考える。 ・消費者の基本的な権利と責任を知る。 ・身近な消費者トラブルの事例を知り、その解決方法を考える。
7 8 9 ※ 本 時	自分や家族の消費生活に関する課題に対し、環境に配慮した消費生活について考え、解決しようと工夫することができる。	○私のいち押し暖房器具はこれだ！ ～選択と購入～ ・家族条件にあった暖房器具を選ぶ。 ・収集・整理した暖房器具についての情報を活用して、広告づくりをする。 ・適切な選択・購入について考え、消費のあり方を改善する。

生活の課題発見

自分や家族の消費生活を実感できるような実践的・体験的な活動を計画的に設定し、自分や家族がどのように家庭で生活しているかに関心をもち、問題意識をもてるようにします。

解決方法の検討と計画

課題を解決するために必要な消費生活についての基礎的・基本的な知識及び技能を習得します。その際、体験的な学習を通して、よりよい消費生活を考え、理解できるようにします。

課題解決に向けた実践活動

基本の題材で学んだことを、家庭で活用する場面を意図的に設定し、「生活の課題を解決する力」を育むことを目指します。

家庭・地域での実践

実践活動の評価・改善

このような一連の学習過程を工夫した題材構成により、生徒が課題を解決できた達成感や、実践する喜びを味わい、次の学習に主体的に取り組むことができるようにします。３学年間を見通して、このような学習過程を工夫した題材を計画的に配列し、課題を解決する力を育むことが大切です。

※この学習過程は、生徒の状況や題材構成等に応じて異なることに留意する。

※家庭や地域での実践についても一連の学習過程として位置付けることが考えられる。

（４）授業展開例

○本時目標

①商品を選択するときのポイントを意識しながら、各グループから出てきた情報を活用して、自分なりの考えを持って商品に投票（購入）することができる。【技能】

②よりよい消費者を目指して、どのようなことを考えて商品を選択すればよいかまとめることができる。【工夫・創造】

学習活動	○主な発問や指示・予想される生徒の反応	指導上の留意点
1　本時の目標・学習内容を知る。	○よりよい消費者と聞いてどんなことを連想するだろう。よりよい消費者とは何かについて考えよう。	・本時目標を板書し、今日の学習のねらい・学習の流れを押さえる。
私のいち押し暖房器具のプレゼンを通し、適切な選択・購入について考え、自分や家族の生活や消費のあり方について大切なことをまとめよう。		
2　グループごとに自分たちが考えた暖房器具についてプレゼンする。	○商品選択の７つのポイント・購入方法・支払方法にはどのようなものがあっただろう。 【商品選択のポイント】 ①必要性　②品質　③安全性 ④機能性　⑤環境への配慮 ⑥保証・アフターサービス ⑦価格 【購入方法】 ①店舗販売　　②無店舗販売 【支払方法】 ①前払い　②即時払い　③後払い	【10の視点】 ⑤説明･発表の機会の充実 商品選択のポイント･購入方法･支払方法を意識しながら、説明をしたり、聞いたりすることで、基礎的･基本的な知識を整理しながら筋道を立てて自分の考えを表現することができるようになる。
3　自分なりの考えを持って、商品を選択する。	○５つの商品の中でどの商品を購入（投票）するか考えよう。そして、どのようなことを考えて購入（投票）を決めたか投票用紙にまとめてみよう。 ・価格が適正である。・環境によい。 ・家族に必要なものである。 ・安全である。・機能がよい。 ・カードを使ってでも、よいものを購入した方がよい。 ・保証・アフターサービスがよい。	・投票＝購入であることを押さえる。 【10の視点】 ②学び合う活動の充実 これまでに学習してきたことや日常生活とのつながりを意識しながら、条件にあった商品選択･購入を投票で擬似体験をさせることで、自分の消費行動が環境や社会に及ぼす影響について考えることができるようになる。
4　５つの商品の中でどれか一つの商品を購入（投票）する。	○自分なりの考えを書いた投票用紙を、よいと思う商品に投票してみよう。	【10の視点】 ②体験的な学習の充実
5　投票箱を開き、投票された意見を聞く。	○みんながどんな意見で、商品を選択したか聞いてみよう。	投票箱に入った意見を聞くことで、課題解決のための考えを共有し、自分の考えを広げ深めて、よりよい消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫できるようになる。
6　本時のまとめをする。	○よりよい消費者として、大切だと思ったこと、気づいたことをまとめよう。 ・環境について考えてなかったので、環境について配慮していきたい。 ・欲しいものをすぐに購入していたので、必要性を考えたい。	・各グループのプレゼンをもとに、適切な選択・購入について考え、自分や家族の生活や消費のあり方を改善しようと工夫し、ワークシートにまとめさせる。 ・生徒の感想、変容を読み取り本時のまとめを行う。

【参考】評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校）平成２３年１１月　国立教育政策研究所
第５３回中国・四国地区技術・家庭科研究大会（鳥取県実践発表資料）